全日私幼連 情報特急便

№８号・平成24年９月18日
全日私幼連広報委員会
Mail：info@youchien.com

◆こどもがまんなかＰＲＯＪＥＣＴ

こどもが まんなか PROJECT が朝日新聞に意見広告

こどもがまんなかＰＲＯＪＥＣＴ推進会議では、「こどもの権利」「こどもと家族の健康」「国際的支援活動」「こどもがまんなか生活」「日本文化・地域文化の継承」「共生」の６つの柱を掲げ、全国各地でイベント等を通じてこどもがまんなかプロジェクトの活動を展開しています。

「こどもの権利」での活動では、この度、朝日新聞紙面（2012年９月５日朝刊）に意見広告を掲載しました。紙面では、こどもがまんなかプロジェクトに協賛する企業各社が、子どもの権利条約で謳われている“生きる”“発達する”“保護される”“参加する”の４つの子どもの権利に通じる自社の取り組みを紹介する形で、子どもの立場に立って″社会全体で子どもたちのことを考える″「こどもが まんなか」の社会づくりを全国に呼びかけました。

また、「国際的支援活動」では、東日本大震災で被災された方々や園等に対する震災復興と「世界の子どもとお母さんの命を守る」ための国際的な支援活動のための協力金を募集しています。近日、募金活動のための募金箱を各園にお届けいたしますので、募金箱をご活用いただき、ぜひとも「こどもがまんなかＰＲＯＪＥＣＴ協力金」にご協力くださいますようお願い申し上げます。

「こどもが まんなかPROJECT」と「全日私幼PTA連合会（幼稚園ママ.com）」のホームページ

私立幼稚園.com

http://www.shiritsuyouchien.com

この度、「こどもが まんなかＰＲＯＪＥＣＴ」と「全日本私立幼稚園ＰＴＡ連合会（幼稚園ママ.com）」のホームページをリニューアルさせていただきました。コンテンツも充実し、より一層使いやすく、より見やすいホームページとなりました。ぜひご覧ください。

〔本号は２枚〕

こどもたちの毎日の生活の中に、「良いこと」「楽しいこと」の繰り返しがありますか？

こどもの心の声に耳を傾けていますか。
こどもの基本的な生活リズムや習慣が
不規則になっていませんか。
自然な親子の会話やこども同士の
コミュニケーションが希薄になっていませんか。
わたしたちは、大人の立場や
効率を優先しがちです。

こどもが
まんなか
PROJECT

こどもは社会の一員です。
こどもの思いを尊重し、
こどもにとって何が最も良いことかを
みんなが真剣に考え、行動しましょう。
「こどもが まんなか」を日本の国で実現しましょう。
家庭・地域・学校・企業が手を携えて
一歩ずつ前進していきましょう。

「子どもの権利条約」を知っていますか？

国際連合が1989年に採択した「子どもの権利条約」は現在、世界193の国と地域で締結されています。日本は1994年に批准しています。条約では、「生きる」「発達する」「保護される」「参加する」の権利をあげています。子どもにとって最もよいこと（子どもの最善の利益）が優先され、子どもも大人と同じ人間（権利の主体）として尊重されなければなりません。もっと国民の多くの人に知ってもらいたい条約です。

つどう

リーボックの推奨するBOKSプログラムこどもが集まって運動することにより、脳の活性化を促し、学力が身に付きやすい状態にすることを目的とした知育運動プログラムです。みんなで参加して「からだ・あたま・こころ」を元気いっぱいにしましょう。

全米注目の BOKSプログラム 脳の働きを活性化し、学習能力を向上

こどもたちが楽しく体を動かすことによって、運動能力を高めると共に「脳」の働きを活性化し、学習能力や記憶力を向上させることができます。だれもが仲良く会話しながら運動することにより、コミュニケーション能力や協調性が培われます。

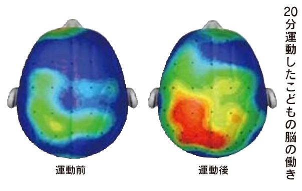
こどもたちに ポジティブな影響

こどもたちの運動前後の脳の働きを比べると、左図のように、運動後の脳の方が活発に機能していることがよくわかります。また、下表のBOKSプログラムを実施したアメリカの教師と保護者のアンケートでは、こどもたちがプログラムの参加後、よりポジティブな行動をするように変化したことが報告されています。

科学的根拠に 基づいた プログラム

ハーバード・メディカルスクールのジョン・レイティ博士は「朝、体を動かすことが脳の活性化に高い効果を生む」と、科学的根拠に基づいたこのプログラムを推奨しています。

20分運動したこどもの脳の働き



イリノイ大学　チャールズヒルマン博士による調査結果より

BOKSが与えるポジティブな影響

■担任教師へのアンケート結果	848人
ディスカッションが活発になった	Yes 60%
遅刻をしなくなった	Yes 64%
話を落ち着いてよく聞くようになった	Yes 59%
■保護者へのアンケート結果	578人
学校に行くのが楽しそうだ	Yes 89%
活発になった	Yes 82%
体を動かすことが楽しそうだ	Yes 84%

【ジョン・J・レイティ博士】医学博士、ハーバード大学医学部臨床精神医学准教授　カナダ アルバータ州のウェルネス（健康）アドバイザー　アメリカ、カリフォルニア州、体育とスポーツ分野の知事諮問委員会　アメリカ本社、リーボック社のActive Kids大使　アメリカ、ユタ州、ウェルネス（健康）スペシャル・アドバイザー　台湾、馬英九総統と台湾をスポーツ島にする活動など、スポーツ関連の活動も精力的に取り組んでいる。日本での著書も多数。

Reebok
http://www.reebokjapan.com/
http://www.boks.jp/

はぐくむ

銀座コージーコーナーのスイーツは、クリスマスや誕生日などのお祝いを楽しく華やかに彩ります。四季折々の伝統的な行事のかたわらには、いつもこどもたちが喜ぶスイーツがあって、親子の絆や思い出を育みます。

スイーツを 味わいながら 行事の由来を聞く

ひなまつり、こどもの日、七五三など、四季折々の伝統的な行事のそばには、いつもこどもたちが喜ぶスイーツがありました。そのときどきのスイーツを楽しく味わいながら、こどもたちは親や周囲の大人から行事の由来を聞き、こどもの健やかな成長を願う親の思いを感じてきました。時を経て、行事とともにスイーツが受け継がれてきたのはこの思いがあればこそ、なのです。

スイーツのおいしさが 楽しい思い出を 心に刻みます

日本古来の行事に加えて、今ではクリスマスやハロウィンもすっかり定着しています。折々の行事を大切にする心とともに、行事に寄り添ったスイーツを囲む習慣も大切にしたいものです。スイーツを囲んだひとときは、親子や家族の語らいをより豊かなものにします。そして笑顔を広げることでしょう。楽しいひとときは、その時だけのものでなく大切な思い出にもつながっていきます。そんな繰り返しが親子の絆を育みます。

GINZA Cozy Corner
http://www.cozycorner.co.jp/

まもる

アップリカとグレコはこどもの笑顔を第一に、車内でも常に安全で快適な環境をお届けします。こどもを連れて車でお出かけする際には、チャイルドシートを必ず、正しく使用して車内を笑顔と会話に満ちた楽しい空間にしましょう。

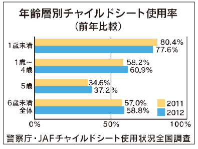
6歳未満の こどもには必ず チャイルドシートを

こどもがコックリ眠ってしまった時もチャイルドシートがあれば安心です。急に立ち上がってハッとした経験をされた方もいるかもしれません。親子の安心、安全のため道路交通法では6歳未満のこどもにチャイルドシートの使用を義務づけています。万が一、衝突事故が起きてもチャイルドシートに守られていれば安全です。

＊チャイルドシートを使用しないと死亡重症率は約3.8倍になるともいわれています。（警察庁調べ）。

チャイルドシートも 「こどもが まんなか」の 第一歩です

下表のようにチャイルドシートの使用率は、こどもの年齢が上がるほど低下しているのが実情です。アップリカ調べでは「こどもが嫌がるから」が使用しない理由のトップですが、装着の手間を省く前に、こどもの命を守るために必要なこと、車内の安全について、家族で話し合ってみませんか。



警察庁・JAFチャイルドシート使用状況全国調査

Aprica
http://www.aprica.jp/
GRACO
http://www.gracobaby.jp/

いきる

スヴェンソンは「ハートプロジェクト」を通して、世界中のお母さんの命と健康を守る活動をサポートしています。

出産リスクから、 がんのリスクまで

アフリカや南米など発展途上の地域では、現在も20人に1人の母親が出産後に命を落としています。母と子の命を守るためには止血の技術を備えた産婦人科医の力が必要です。また、世界中で、子育て世代の母親がかかる子宮頸がんなど婦人科がんに対する産婦人科医の治療技術の向上が期待されています。「ハートプロジェクト」では、がん治療中の女性のQOL向上をめざす機能性とデザインに優れた製品開発や、様々な社会活動の支援を行っています。その一環として今年、医療向け帽子の売り上げの一部を国際婦人科がん学会が実施する「若手医療者の育成活動」に寄付させていただきました。これからも世界中のお母さんの命と健康を守る活動を応援していきます。

HEART PROJECT

コシノジュンコさんデザイン監修 縫い目のない 医療向け帽子

SVENSON HEART PROJECT
http://www.katsura-ladys.com

乳房健康研究会は「お母さんの元気」を守るため、日頃からのブレストケアによる乳がんの早期発見を提唱しています。

乳がんは 定期的なチェックで 早期発見が大事

乳がんを発症する女性は年々増えています。特に子育ての時期と重なる三十代から多くなり四十代からがピークに。家族の安心のためにも、月に1度の自己検診とマンモグラフィなどの検診を定期的に受けましょう。早期に発見すれば怖い病気ではないのです。

ピンクリボンウオーク®に参加して、 生きる喜びを伝えよう

この秋も全国各地でピンクリボンイベントが開かれます。乳房健康研究会では9月30日（日）に「ピンクリボンウオーク® inすみだ」を開催。錦糸公園を出発して東京スカイツリーをめざします。ご当地“ゆるキャラ”も大集合します。家族みんなで参加して命を守る乳がん検診の大切さを広めてください。

JAPAN SOCIETY OF BREAST HEALTH
http://www.breastcare.jp/

推進主体「こどもが まんなかPROJECT」推進委員会
全日本私立幼稚園連合会、（財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構、全日本私立幼稚園PTA連合会

「こどもが まんなかPROJECT」とは

こどもの立場に立って“社会全体でこどもたちのことを考えたい”。私たち私立幼稚園がそのきっかけをつくり、「こどもが まんなか」の社会づくりに向かって、皆さんと考え、議論したい。その動きを生み出せるよう「こどもが まんなか PROJECT」をスタートさせました。

平成24年度　こどもが まんなかPROJECT活動内容

- ○こどもの権利インデックス
- ○世界のこどもとお母さんの命を守る国際貢献
- ○こどもと家族の健康啓発
- ○日本文化・地域文化の継承
- ○こどもが まんなか生活フォーラム
- ○東日本大震災被災地の支援

私立幼稚園.com　検索